令和4年度 山梨県立中央高等学校·定時制 評価報告書(自己評価·学校関係者評価)

学校目標·経営方針

自らを尊び、社会を生き抜く人づくりをします

山梨県立中央高等学校校長 古屋はるみ

				-		
	1 学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける	Α	ほぼ達成できた。(8割以上)		4	良くできている。
本年度の重点目標	2 社会性を身につけ、自立と自律を目指す	達B	概ね達成できた。(6割以上)		評 3	できている。
	3 自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ	度 度	不十分である。(4割以上)		価 2	あまりできていない。
		D	達成できなかった。(4割以下)			できていない。
				-		

			自	己 評 価				学校関係者評価
		本年度の重点目標		年度末評価(令和5年2月)			実施日 (令和5年2月中旬)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見
	学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を - 問い続ける	・少人数授業の中で「わかった!」「楽しい♪」「なぜ?どうして?」、「自分だったら」の学びを大切にし、個に応じた力を伸ばす。 「基礎・基本の定着と学びに向かう力」 「多面的・多角的に考える力」 「本質的な問いかけ」	・生徒、職員、保護 者、学校関係者などに よる中間・年度末評価 一アンケートなどによる ・教職員の授業実践 状況及び自己観察書 ・生徒の学力状況	・生徒による評価アンケートの結果、「意欲的に参加している授業がある」生徒は89%、「好きな授業がある」生徒も85%、保護者による評価アンケートにおいても「生徒は授業がわかりやすいと言っている」保護者が93%という高い結果であり、数値的には概ねよいと評価できる。また、生徒の評価では「先生方の授業はわかりやすくするための工夫をしてくれている」が91%と個に応じた力を伸ばす授業に取り組んでいる。アンケート全項目の中では下位の評価となっているものもあり、さらに改善の余地がある。・生徒は「ノート等で授業を記録することができた」が95%と高いが、ICT機器を効果的に活用する項目が低い結果となった。・職員の評価アンケート「アクティブ・ラーニング法による授業実践の観察をし、自己の資質向上に役立てている」が95%と高く、自己観察書に記載された授業アンケートの結果は肯定的なものが大半をしめるなど良い方向へ進んでいる。	А	・生徒は概ね前向きな態度で授業に臨んでいる。教員の授業改善の効果もあり、学習への意欲は高まっている。一方で家庭学習が少なく、学習の定着については課題が残る。生徒の生活が学校だけでなくアルバイトなど就業しながらであることからも、時間的、体力的に厳しい面があるが、学ぶ楽しさや喜びを知ってもらいたいことを問い続けていきたい。・今年度の1年次生から一人一台のBYOD端末の使用が始まり、ICTの利活用など、教員の授業改善が進んでいるが、すべての教員が実践しているわけで	4	・生徒による学校評価アンケートでも「授業がわかりやすい」、「好きな授業がある」等の評価が高く先生方の授業への工夫がうかがえ、良い傾向だと思います。 ・ICTの活用や「自ら学ぶ」という観点から家庭で少しでも多く学ぶ習慣がつけられると良いと思います。 ・少人数授業の中で個に応じた力を十分伸ばしていくことは本当に良いことだと思われる。具体的方策としては「基礎・基本の定着と学びに向かう力」、「多面的・多角的に考える力」、「本質的な問いかけ」は理にかなっていると思います。 ・授業を参観したが実際学習している姿を直に拝見し、生徒と直接対応し、見聞きしている姿がとても微笑ましく感じられた。
		・相互授業参観や授業アンケート結果を活用し、ファシリテーションスキルを身につけたICTを利活用した授業の実践				はなく、十分とはいえない。12月に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の研修会を行い、教職員の意識と情報リテラシーの向上を図った。今後もさらに実践していきたい。教職員の授業におけるファシリテーションスキルの向上も課題として残っている。今後も生徒が授業が好きだと感じ、授業に対して興味・関心をもてる魅力的な授業の実践ができるよう取り組みを奨めていく。		
	社会性を身につけ、自立と自律を目指す	・「種まき・芽生え・成長」という意識で、生徒一 人ひとりの発達段階に応じたサポートの実践	•生徒、職員、保護	・生徒による評価アンケートの結果、「学校は全ての教育活動において、一人一人の生徒を大切にする姿勢で指導にあたっている。」との問いに対して肯定的な評価の生徒が94%に達し高い数値を示している。また、『CHUOハーモニックプランの目標「私もできるかも」「私には価値があるかも」といった自信が以前より持てるようになっている』には肯定的評価は79%となっている。・生徒による評価アンケートの結果することのできる人がいる」の問いに対して、80%の生徒がると回答している。・保護者による評価アンケートの結果では「生徒一人一人の理解を深め、生徒の自主性、自立性を高めるような生徒指導がなされている。」に肯定的評価が94%と高いにおきと生活している。」には肯定的評価が92%であった。・生徒によるアンケート結果では『私にとって「THE ENSOKU」は、山梨の歴史や文化が知れ、仲間と交にがな意見であった。・生徒によるアンケート結果では『私にとって「THE ENSOKU」は、山梨の歴史や文化が知れ、仲間と交流を深める機会になっている』には92%の生徒が肯定的な意見であった。・保護者のアンケート結果では「本校の特色ある取り組みの存在を大切にし、社会性を身につけ自立を目指す取り組み)を知っている。」と答えた保護者は88%と高い。		・「種まき・芽生え・成長」を目的としたハーモニックプランに対しては、生徒からも職員からも一定の評価を得ており、学校としても概ね目標を達成できた。今後はさらに内容の充実を図る。さらに、学校説明会での中・高生徒やその保護者に説明した。HP等を活用し、周知、啓蒙をすすめていく。他にも学校からの各種便りが家庭に届く割合が低いなど、学校と家庭の連携にも課題があるため、無料したが登録録が少なく、来年度から全家庭・生徒に登録していただく。・「THE ENSOKU」や「総合的探究の時間」で地域の講師を招き、地域の伝統や文化を生徒が学習やし、地域を愛し、地域に貢献する心を育てていく。・「通級指導」については成果が見られているが、今後も、卒業導支援をすっめていく。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・「CHUOハーモニックプラン」に基づき、様々な仕掛けを設け、効果をあげてきていると思います。あとはそれぞれの行事や企画について、「CHUOハーモニックプラン」の目標のためにやるのだということを生徒に説明し、意図的に取り組ませて行くことが大切だと思います。 ・親から離れ独り立ちする方策を身につけさせるためにはどうしたら良いかを考える。 ・一人ひとりの発達段階に合わせてその生徒の特徴を職員がいち早く見つけて、良い方向へ伸ばしてやることは大変良いことと思います。 ・遠足などを通じて、周りに目を向け、地域を愛し、地域に根差した貢献しようとする心を育て、相互の絆を高めることは本当に良いことと思います。 ・「ソーシャルスキルトレーニング」等を通じて良好な人間関係をつくり、早く社会や企業で必要とされ、自分自身もいち早く社会や企業の戦力となるよう励むことを心掛けることが大切である。
		・「総合的な探究の時間」での「山梨を知る」探究活動や遠足を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする心を育む			B		4	
		・ソーシャルスキルトレーニングや通級指導を 通して、他者との関係をよりよく築く			÷			
	自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ	・授業や行事の中での「命を守る、命を大切に する」学習を通して、多様化する社会の中で生 き抜く力を高める	よる中間・年度末評価 アンケートなどによる ・研修実践状況 ・教職員の健康状況	・生徒による評価アンケートの結果、「学校では、自分の生き方やもり方、道徳について考える機会がある。」では89%の生徒が肯定的な意見であった。・保護者の評価アンケートでは「学校は、命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育成している。」に対して95%が肯定的な意見であった。		・「命の授業」等の講演会や保健体育や家庭科等の 授業での自他を認め合う学習を積極的に行った。ま た避難防災訓練を通じて命の大切さや自助・共助・公 助の精神や生徒が主体的に行動する防災教育を進 めていきたい。 ・今後も職員、生徒ともども「命の教育」「アンガーマネ ジメント」などメンタルヘルスに関わる研修を続けてい		・対人関係やコミュニケーションがうまくとれない生徒が多いと思う。「命の授業」・「アンガーマネージメント」を通して、人との関わり合い方のスキルアップをさせていただきたいと思います。また、「生活体験文」は過去の自分を見つめたり、これからの自分を考えたりするのに有効な手段であると思います。 ・「自らの命を守る、命を大切にする」学習を通して、社会の荒波の中で生き抜く力を高め、怖いものはないという気概を持つて事に当
3		・「自らの生き方や在り方」を深める生活体験 文発表や、面接指導など実践的な進路学習を 通して、社会的・職業的自立を混ざす		・教職員の評価アンケートでは、「生活体験文を通して、自己を見つめ、自尊感情や自立意識の向上の場となっている。」には88%の教職員が肯定的な意見であった。また、生徒の評価アンケートでは「学校は進路についての情報を適切に伝え、進路を考える機会を作っている。」では肯定的意見が92%と高い。	き、さらなるスキルアップと安定した日常生活を送ることを目指していく。 ・山梨県教育祭における生活体験文発表では、本校定時制生徒が最優秀賞となり、県代表として11月に全国大会に出場した。次年度以降も個別指導等を実施し、生徒の成長を図りたい。また、年次や進路、教育相談と連携し情報を共有しながら生徒の自己実現を図っていく。	3	たれば良いと思う。 ・「自らの生き方や在り方」を深める生活体験文発表や面接指導等、実践的な進路指導に教職員が親身になって生徒の自立を目指してほしい。生徒の心の琴線にふれる様に教職員が仕向ける。 ・教職員の健康状況が悪ければそのまま生徒に反映してしまう。 教職員の健康づくりに励むことが肝要である。	
		・職員の心身における健康づくりの推進		・教職員の健康管理については職員健康診断や教職員巡回健康相談、ストレスチェックを実施する中でメンタルヘルスの実施や情報提供を行った。年間を通じ長期の休暇を取得する教職員が居ず勤務できたことは評価できる。		・新型コロナウィルス感染拡大防止については、保健環境係から生徒や家庭に対して正しい情報を発信し、実行可能な範囲でできるだけの対応を行った。校内での消毒・換気等対策に努めていきたい。		